

黄水仙号

Shouei

発行者: 實積克彦, 埼玉県狭山市水野 594 番地, 編集長: 関口 歩 企画編集: 広報紙編集室,  
ホームページ: [www.syojukai.or.jp](http://www.syojukai.or.jp) メール: [syojukai@mirror.ocn.ne.jp](mailto:syojukai@mirror.ocn.ne.jp)



ホームページ ブログ

## 平成 27 年度医療法人尚寿会事業計画 ～副理事長 實積英彦～

日差しに温かさを感じるようになりました。

インフルエンザの予防・治療から、花粉症への対策が必要な時期です。同時に本年も既に数か月が経過し、私的には1週間が1日のような感覚が継続しています。誰もが平等に与えられた24時間・1週間・1か月間を、皆様はどのように感じられ、そしてどのように過ごされているでしょうか。

私が年度初めの事業計画を記させて頂くのも、今回で3回目となります。それらは多くの方々に支えられて、初めて具現化が可能です。いくつかの事柄に関しては、幾度となく志すも達成容易ではなく、幾度となく書き続けています。

実行したいことと、地域のためにしなければならないことを熟慮の上で、本年度は先ず下記を行います。

### ① 尚寿会における各種既定の見直し

就業規則、給与・賞与規定、服務規程を中心に見直しを行います。常日頃より多忙な業務の中で尽力する職員の皆さんのために、少しでも働き甲斐のある環境を整備します。社会情勢も厳しい中で、僅かではありますが、規定にて手当の改善を行います。



### ② 法人教育委員会における職員研修制度の見直し

私たち医療に携わる者は、日常業務の中において患者さんから教えて頂くことがたくさんあります。同時に常日頃より自己研磨が必要です。そこで、職員研修の内容及び制度の再考を行いました。法人の推進する研修に業務内にて参加できない職員に対しては、支援制度を設けます。

### ③ 法人内関係の再構築 TSC から SSC への規模拡大

医療界では画期的な試みです。昨年度 TSC (大生主任コミュニティ) からスタートし、本年度からは SSC (尚寿会主任コミュニティ) として、規模の拡大を行います。医療現場の核となる主任が、職種の垣根を越えて絆を形成します。お互いを知り合い、認め合うために行います。業務連携推進室 (有資格者) が特殊な専門的概念を用いて、多職種連携から多職種公平を基本に、法人内水平連携 (横のつながり) を強化します。将来の展望は、全職員参加です。



### ④ 福利厚生 の 充実

地域医療のために日々尽力してくれている法人職員のライフワークバランスは重要です。本年度より軽井沢にも職員専用の保養所を用意しました。緑に囲まれた広大な敷地、どの名所にも自転車で行ける最高の立地・テニスコートやバスケット・サッカーゴールも完備です。当然貸切りです。現在も好評の伊東保養所や糸洲鉄道の各施設とともに、上手に利用して、英気を養ってください。

### ⑤ 地域包括ケア病棟の適正活用

慢性期病床である医療療養病床からの転換は、全国的にも未だ多くありません。本病棟の主な存続意義は、高度急性期病院の後方支援と地域在住の方々の慢性疾患増悪の治療目的です。平成 27 年 1 月の診療実績 (大生病院内 50 床 1 病棟) は、在宅復帰率 77%、平均在院日数 38 日、総入退院患者数 59 名、病床利用率 85.9%。運営は現場スタッフを中心に、病院内全病棟の協力を得た上でなされています。今後も地域包括ケアへの貢献を最大限に行います。



## ⑥ “わが家入管”（サービス付き高齢者住宅）建築開始

安心して安らげる住宅療養環境を、当法人が地域高齢者の方々に提供致します。小規模ではありますが、本年夏オープンに向けて順調に準備が進んでいます。



## ⑦ 業務企画・運営室の躍進

昨年度の立ち上げより、今までの法人にはなかった概念を導入しています。本年度は地域の方々の住宅療養環境を支える生活の場・福祉事業への発展を企画して行きます。

## ⑧ 大生病院精神療養病棟の療養環境改善

尚寿会で最も歴史の古い病棟です。重度認知障害の方々に、在宅療養が困難な高齢者に対して、長期入院管理を行う病棟です。昨年度に全面移転計画（新病院の立ち上げ）を予定しておりましたが、私の力不足にて実行に至りませんでした。多くの方々にご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

本年度は、現在入院中の患者さんのために、療養環境整備（病棟へのアプローチ改修・空調整備・浴室環境整備・新緑の庭園設置等）を開始します。

## ⑨ 介護老人保健施設愛における更なる機能充実

まずは、通所リハビリテーションからの訪問リハビリテーションを開始します。入所部門では、在宅復帰強化型の体制を整えます。地域包括ケアへの貢献です。

追伸：同施設内1階の地域コミュニティ喫茶“カフェテラス太陽”を、多くの方々にご利用頂き、感謝しております。地域の方々へ無償で解放されている天然温泉の足湯（尚寿の湯）の帰りにお立ち寄りになる方も多ようです。限定スペシャルランチはいつも完売で申し訳ありません。あくまでもサービスであることをご理解ください。



結びとして、地域への貢献を目的に日々激務に耐えてくれている尚寿会職員の皆様、いつもありがとうございます。本年度も躍進です。

## 介護報酬改定に伴うサービス内容・料金の変更 ～介護保険をご利用の皆様へ～

最近、新聞やニュースでも取り上げられているように、4月に介護報酬の改定が行われます。その改定に少なからず影響している問題が、団塊の世代の高齢化問題です。2025年には、団塊の世代すべてが75歳以上となり、今まで以上に介護や医療を必要とする人であられると言われているからです。そこで、2025年に向けて、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を構築していくことが課題とされ、今回の改定は、そんな2025年を見据えた大きな改定となっています。

「介護報酬が改定」「マイナス、2.27%減」と聞くと、金額ばかりに目が行きませんが、一番注目すべきところはその内容です。今回の制度改正の内容を確認した中でのポイントは、在宅生活支援と認知症高齢者に対する支援の強化です。



介護老人保健施設であれば、トイレ動作などの日常生活動作を習得したのちの在宅復帰支援であったり、通所リハビリであれば、家事や畑仕事、地域

活動への参加支援という、その人らしさを取り戻す支援だったりします。また、訪問部門でも、通所リハビリと連携した活動・参加支援や、中～重度者や認知症



高齢者の在宅生活が継続できるための支援を、以前よりさらに強化することが具体的な内容となり、それらをまとめるのが、在宅のケアマネージャーで、改定に伴う必要サービスの変更や調整を行います。

全体を通していえることは、今回の改定では多職種協働で、利用者様の状態に合わせて、医療・介護・看護・リハビリが連携を強めることを、より事業者に求められていることと感じます。

4月以降からは各事業所より、以前と異なるサービスの提供や同じサービスでも料金が変わることがあります。改定に伴うご不明点や内容説明等、担当ケアマネージャーや各事業所にお気軽にお問い合わせくださるようお願い申し上げます。（なみ）

★地域交流推進委員会…3月14日のクリーン作戦！たくさんのご協力ありがとうございました！★

## 尚寿ブランド ～今号から連載で紹介します！～

尚寿会には独創的なアイデアから生まれた“尚寿の〇〇”という、尚寿会ブランドが現在で19個存在します。患者様、ご利用者様、地域住民の方々に喜んで頂ける様、また職員もいきいきと誇りをもって仕事ができるよう、この尚寿会ブランドは様々な場面で活躍しています！

初回である今回はまず法人の根幹をなす職員と、その福利厚生についてご紹介します。

### ① 尚寿の宝 ～職員ひとりひとりが宝です～

組織にはマンパワーが不可欠！特に、尚寿会のような分野はマンパワーがなければ成り立ちません。尚寿会では、現在約1200名の職員が、それぞれの役割をもって業務にあたっています。「信頼と愛とで築く地域医療」の法人理念の下、やさしい医療を心掛けています。



### ② 尚寿の福利 ～福利厚生施設 保養所等の活用～

直営の保養所が、伊東市と、4月からは新たに軽井沢町にもお目見えします。その他、紀州鉄道とシダックスの法人会員！それらの施設が会員価格で利用できます。上手に利用して、活力に替えましょう！（ちか）

## 介護百人一首の優秀歌十首に選ばれました！ ～老健愛通所ご利用者様作品～

### 聞こえない 知らない 忘れた 悪智恵か 全部バッチリ まだまだ負けぬ

老健 愛の通所リハビリに通うご利用者様が老健介護百人一首に応募され、優秀歌に選ばれた作品です。他にも同じご利用者様が、言の葉（ことのは）コンテストにおいても金賞を受賞されるなど、輝かしい成績を残されています。ご本人は、通所リハビリのクラブ活動である「愛会（いとしかい）」という俳句を詠む会に参加され、四季折々の命題に沿った多くの俳句を仲間とともに詠まれ、楽しまれています。



老健 愛の通所リハビリでは、ご利用者様自らがクラブ活動などで他のご利用者様を先導し、時に指導者として活躍をして頂いております。今回はご利用者様の自立支援という形が実ったひとつの結果であり、職員一同も大変うれしく思います。今後もご利用者様の自立に向けた取り組みの支援を続けて行きたいと思っております。（なみ）

## 法人運営に力強い 新しい部署が仲間入りしました ～情報システム課・事業企画運営室～

近年、医療機関でも病院情報システムの導入等、電子化が著しく進んでいます。尚寿会の各事業所でも、日々の診療に関する情報、事務管理部門では、勤怠管理・給与計算等、多種多様な情報システムを活用しています。それらの導入やメンテナンスについて、今までは事務職員が兼任でしていましたが、1月21日から独立した部門として「情報システム課」を立ち上げ、法人全体のシステム管理や運用を担当することになりました。

「電子カルテや業務支援等の情報システム導入に取り組んでいます。システムの複雑化や情報漏えい問題など、セキュリティ対策等、専門知識が必要不可欠なため、この度情報システム課を発足することになりました。今後はシステム構築の拡大を見据え、それらを企画・開発・運用・管理を行って行きたいと思っております。ご支援のほど、よろしくお願い致します。」とは、情報システム課立ち上げとともに入職された中島裕二さん。

大生病院の宮原公矢先生を中心に、中島さん、成川さんとの3人体制で、各事業所に見合うIT化、既存のシステム安定稼働に日々取り組んでくれます。なんとも心強いかぎりです！

また、昨年12月より起動しております「事業企画運営室」。山田裕一さんが、法人として新たに取り組む様々な事業企画の掘り起しや情報収集、行政や他企業、地域との調整等を行っています。こちらはすぐに目に見えて成果の得るものではありませんが、法人としてのビジョンや地域ニーズにあった事業展開をしていくためには非常に重要な分野であり、中長期的視野に基づいて、理事長直轄で活動しています。こちらは今までは主に事務職が兼務として行ってきたものを独立させ、より専門的に丁寧な活動が可能になりました。

2つの部門ともに、医療法人尚寿会の今後の発展のためには不可欠な仲間です。新入職の職員ですが、一日でも早く法人職員として、多くの他部署ともコミュニケーションがとれるよう、よろしくお願い致します。（なる・歩）



## 蜷 気 楼 ～復興支援 ひとつのかたち～

前回僕がこのコラムに寄稿したのは2011年のことだった。東日本大震災から1ヵ月後、被災地からの要請があり、当時は首都圏でも手に入り難かった単1単2の乾電池などを理事長の「鶴の一声」で法人中から集めていただき、深夜の東北道を飛ばして石巻に届けたことを報告した。紙面が限られ被災地での活動内容には触れられなかったが、被災から4年が経とうとする今、その後の活動内容を簡単に報告させていただく。



2011年秋に石巻駅前に「からころステーション」という被災者のカラダとココロの相談に乗る拠点がつくられた。仙台や石巻の精神科クリニックから看護師や臨床心理士、精神保健福祉士、ケースワーカーなどが年中無休で詰め、全国から精神科医たちが交代で支援に参加し、主に仮設住宅への訪問活動を行っている。訪問の他に「ステーション」に直接相談に来られる被災者の相談や、電話での相談にも常時応じている。訪問対象は、健康調査アンケートで心身に問題を抱えていると思われる被災者が主で、保健所や市の職員だけでは手が回らず、また行政側のフットワークの制約もあって、365日休みなく活動している「からころステーション」が訪問支援活動の中心を担っている感がある。

僕は概ね月に1回、土日の2日間を支援にあてている。土曜日の朝一番の電車で被災地に向かい日曜日の夜遅くに帰る支援活動は老体には些かこたえるが、被災者の方々の辛抱強さや、現地で支援活動をしている若者達に接していると逆にこちらが元気をもらっているようにも思う。心身の問題を抱えながらストレスフルな仮設住宅を未だに出ることができない多くの被災者の現実を知ると、“復興”についても格差の拡がりを感じてしまう。阪神・淡路大震災で「はさみ状復興」といわれた二極分化が、東北の被災地では更に拡大・増幅して現れているように感じている。カラダが続くうちはこの支援活動はやめるわけにはいかないと思っている。

大生病院 精神科科長 A1病棟・精神科外来月曜午前・水曜午前・金曜午後担当 中里 進

## 職員は『尚寿の宝』です！ ～永年勤続感謝状授与式～

毎年恒例の永年勤続感謝状授与式が、1月30日金曜日に執り行われました。今年は勤続年数35年が3名・30年1名・25年2名・20年6名・15年17名・10年35名・5年51名の計115名の職員が表彰されました。

毎年この式典に出席するたびに、長い間多くの職員に支えられて、今の尚寿会があるんだなあ実感します。引き続き、育児・介護支援制度の利用率向上、福利厚生充実等に努め、職員が長く安心して働ける環境を整えていかなければと思います。

職員の皆さんもご協力をよろしくお願い致します。

(熊☆)



## 端午の節句を迎えるにあたってのお願い ～こいのぼりを募集しています！～

日本には、数多くの美しい伝統文化や行事が、世代とともに引き継がれてきました。正月、節分、桃の節句、七五三、盂蘭盆、大晦日等々です。そして、これらには多くの伝承があり、それを知ることにより歴史という壮大なスケールを感じることができます。例えば“端午”は、端五の転訛で「五月の端(始め)の五日」の意味で、諸説ありますが男の子を祝う行事ではなかった。現在に至る経緯は?など、どうぞ調べてみてください。

さて、この伝統文化を継承していくためには、皆様の協力が必要になります。尚寿会のこいのぼりは長年の風雨により、傷んでいます。皆様のお宅で眠っているこいのぼりがありましたら、「尚寿の空」で活躍させてみてはいかがでしょうか。ぜひ、お待ちしております。(茶木)



問合せ先 2957-1144 法人事務所

☆黄水仙号☆きずいせん号 モノクロの冬。真っ先に春を伝えてくれる色は“黄色”だと思いませんか？福寿草やクロッカス、そして黄水仙！春の使者は黄色だと、私は想っています。それから桜のピンク、そして藤や菖蒲の青に…。そんな順番。今年も黄水仙が可憐な花を咲かせ、春を連れてきます。(歩)

